

旧掛川市の生涯学習運動（資料編）

旧掛川市生涯学習市民・選択的定住民が住むに値するまちをつくるために行ってきたこと

- (1) 新幹線掛川駅の実現と駅前広場の美学（昭和63年3月開業、総事業費135億円）
 - ・ 駅は、出会いやふれあいの場であり、情報センターであり、その都市の顔である
 - ・ 日本一掛川駅八景づくり・・・33種類100本の街路樹、御影石など6種の舗装、駅南北の巨大モニュメント、これっしか処、木造駅舎 など
 - ・ 市民募金30億円の達成とまちづくり成功体験共有の意義

- (2) 東名高速掛川インターチェンジ（平成5年12月開業、総事業費43億1千万円）
 - ・ 全国502番目にして初めてのデザイン変更
 - ・ 「安全性・機能性・経済性・画一性」 → 「地域性、文化性、思想性、多様性」へ
 - ・ 日本一掛川インター八景づくり・・・城下町らしさあられる料金所、50種類2万本の樹木、高級侍屋敷風事務所 など

- (3) 掛川城天守閣復元（平成6年4月開門、総事業費10億8千万円）
 - ・ 400年前の山内一豊公築城時の天守閣を、全国で初めて本格木造で復元
 - ・ 掛川城大手門本格木造復元と大手門番所移設（平成7年）
 - ・ 城下町風まちづくりの展開：掛川城公園、城下町風町並みづくり、駅天守ギャラリー、観光物産センター「こだわりっぱ」、大手門駐車場 など

- (4) 生涯学習総本山パークづくりと全国への情報発信基地 新市庁舎（平成8年5月）
 - ・ 歓迎施設と迷惑施設を一体的に三点セットで建設
 - ・ 総体を生涯学習総本山パークとし、全国への生涯学習情報発信基地とする
 - ① 質において日本一の新市庁舎・・・85億3千万円
(本体44億、用地23億、その他18億)
 - ② 生物循環パビリオン（し尿処理場）28億9千万円
 - ③ 水質保全パビリオン（下水処理場）70億1千万円（施設43億、用地27億）

- (5) 全市36景独立採算型テーマパーク化（全市想像の図書館化計画）
 - ・ 市内の名所・名園・名施設をミニテーマパークとし、民活独立採算を主力に形成
 - ・ その中から36か所を選定して「掛川36景」とし、ネットワーク化・観光ルート化を目指す
 - ・ 市内すべてのミニテーマパークの総体が「掛川市というテーマパーク」に発展する

- (6) 潤いのあるまちづくり・・・駅前通り線、無電柱化、木柵ベンチを市民とともに
 - ・ 昭和58年11月「うるおいのあるまちづくり第1回自治大臣賞」受賞
 - 生涯学習プラザの混植並木（ケヤキ、山モミジ、コブシ、ハンノキ、クスノキ、シラカシ）

(7) お茶の文化のすすめ

- ・生産消費地づくり（生産地はその消費の文化でも高いものをもつように）
- ・喫茶習慣の日常的芸術性『スリー・ビューティフル・エクスキューズ』
- ・嗜好飲料の自給“カテキン”の効能、栄養、薬事効果の普及
- ・第三セクター(株)緑茶人間科学研究所の設立（平成5年11月）
- ・日本初の生産者茶会、総合的学習への活用 二の丸茶室開館（平成14年5月）

(8) 森の都「ならここの里」

- ・自然に恵まれた水源地域の3,500haの活用とレクリエーションゾーン形成（キャンプ場、市民の森、市有林、みどりの少年団）
- ・ひなびしゃれた温泉（心の体操）

(9) 生涯学習10か年計画による実践（旧掛川市）

- ① 生涯学習10か年計画パートⅠ（昭和55年～平成元年）
 - ② 生涯学習10か年計画パートⅡ（平成2年～平成11年）
 - ③ 生涯学習10か年計画パートⅢ（平成12年～平成16年）
- ・生涯学習都市宣言の翌年の昭和55年からスタートしたパートⅠ、その後、平成2年スタートのパートⅡ、平成12年度スタートのパートⅢと、ハード、ソフト両面にわたり生涯学習まちづくりを25年間すすめた
 - ・生涯学習をまちぐるみですすめるため、あらゆる施策を含む18項目のテーマとプロジェクトを全市的に推進